

平成28年度 外国人留学生 小論文

出題の意図と解答の傾向

【出題の意図】

『インターネットは永遠にリアル社会を越えられない』（古谷経衡 2015）からの出題である。本学に入学する前に、日本語能力を高めるだけでなく、経済学を学ぶ際に必要となる社会を分析する力もつけておいてほしいと考え、この文章を入学試験の問題として採用するに至った。

設問にあたっては、これから本学の経済学部で学ぶにあたって必要とされる日本語能力、文章読解能力、文章表現能力、洞察力、分析力、論理的思考力を測ることに重点を置いた。

設問1では、日本語の教材に現れやすい漢字とともに、日本語の教材には現れにくい本学で学ぼうとする受験生には読めることが期待される漢字も取り上げた。設問2では、データを正しく読み取り、表現する力を測った。問3、設問4では、読解力と理解した内容を再構成する力を測った。設問5では、本文を理解した上で論理的に文章が書けるか、本学の経済学部で学ぶ際に必要となる洞察力、分析力が備わっているかを問うこととした。

【解答の傾向】

設問1を除けば、全体的によくできており、受験者間の差は大きくなかったが、一部、非常によくできている受験者の層が見られた。

自動詞と他動詞の混用、片仮名表記の間違い、助詞の間違いが多く見られた。文体が統一できていない受験者もいた。中国語を母語とする受験者には、簡体字、単語レベルでの中国語の使用も見られた。字数制限のある設問では、著しく字数の少ない受験者もいた。

<設問1>

①は正答率が高かったが、②～⑤の正答率は低かった。特に、⑤の正答率は非常に低かった。

<設問2>

非常に正答率が高かった。

<設問3>

「少数の声や反応が際立っている」ことに関する記述は大半ができていたが、「全体の反応数がかさ上げされている」ことに関する記述のない解答が少なからず見られた。末尾に「こと」や「姿」を用いる解答を期待したが、それができていない受験者も見られた。

<設問4>

(B) の後にある「日本人の国民性」と「日本人の時間の使い方」の二点をについて、自分の言葉でうまく再構成できている場合に高く評価した。「日本人の国民性」に関しては大半が書けていたが、「日本人の時間の使い方」に関しては、「ROM 専」の理由であるライフ・スタイルに言及している受験者は少なかった。

<設問5>

国民性とライフ・スタイルという観点から出身国のネット社会の特徴を述べるよう求めた問題であった。国民性に関しては大半の受験者が日本人の国民性と出身国の国民性を比較する記述を行っていたが、ライフ・スタイルに関する記述のない受験者が少なかった。その他、国民性、ライフ・スタイル、ネット社会の特徴を別々に述べ、それぞれを関連付けないような解答、本文を踏まえていない解答、「ネット社会の特徴を述べる」ということから逸れていき、受験対策として書いたことがあるのであろう類似したテーマの小論文の結びに帰着したような解答も見られた。

内容に加え、文章の構成、論の展開といった点にも重点を置いて採点を行った。深く細部まで読み取り、考えることができた受験者、自分の考えを明確にして論理的な展開ができた受験者を高く評価した。

社会に関する知識、洞察力、分析力が求められる問題であり、日本語の学習を単なる言語の学習と捉えてやっていただけではなかなか解けない問題である。日々の生活の中で、様々なことに興味を持ち、自ら考える力を養うことが望まれる。